

「男女共同参画からダイバーシティへの展開～群馬大学まゆだまのとりくみ」

群馬大学ダイバーシティ推進センター
教授 林はるみ 講師 長安めぐみ

群馬大学のビジョン

地域に根差し、知的な創造を通して、世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学へ

学長のコミットメント

●群馬大学は、多様性と活力ある教育・研究環境の実現をめざし「まゆだまの10年(2013-2022)」として男女共同参画を恒常的に発展させる。

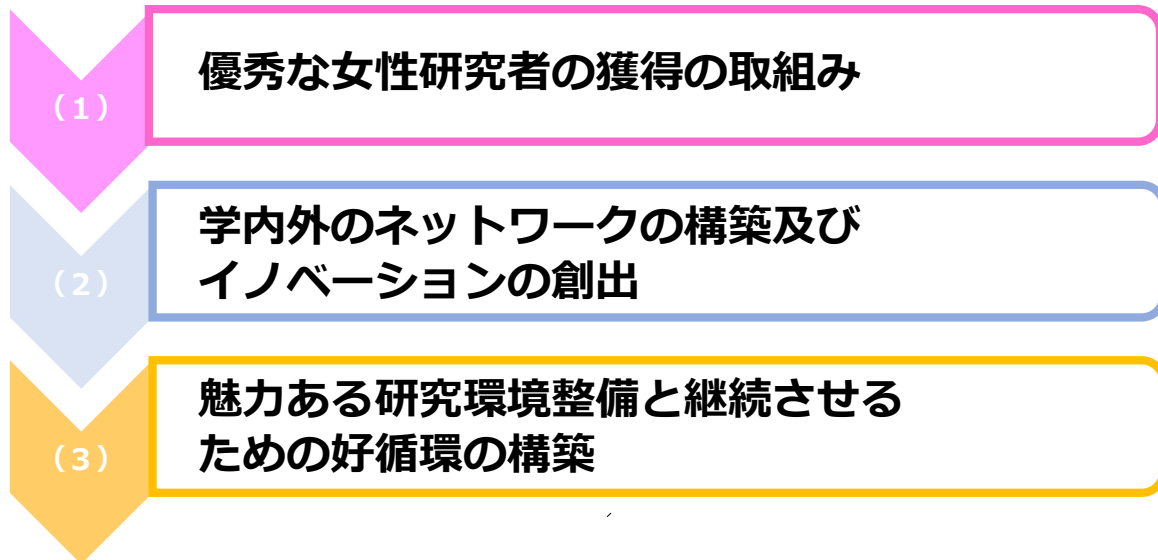
◎まゆだまプラン（2013～2015）及びまゆだまプランアドバンスト（2017～2022）を展開



まゆだま10年の取組により、女性研究者がつながり紡ぐイノベーションの「好循環」を構築します。

「まゆだまプラン」から「まゆだまプラン-アドバンストへ」

さらなる発展のための3つの課題



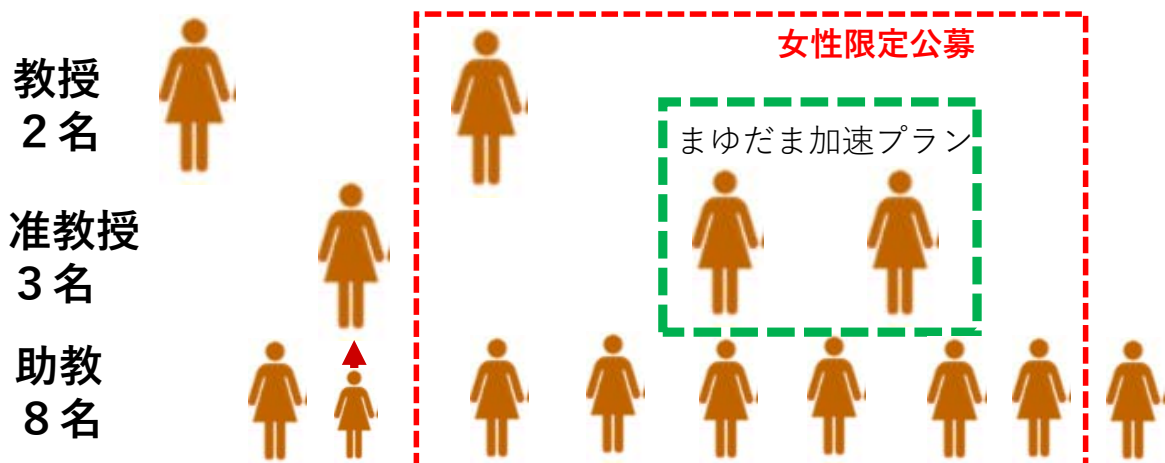
「まゆだまプラン-アドバンスト～女性研究者がつながり紡ぐイノベーション～」
地域創生に貢献する新しい群馬の女性研究者リーダーモデルの提案

2019年度の間評価は総合 A

課題(1)-1 理工学府 女性限定公募

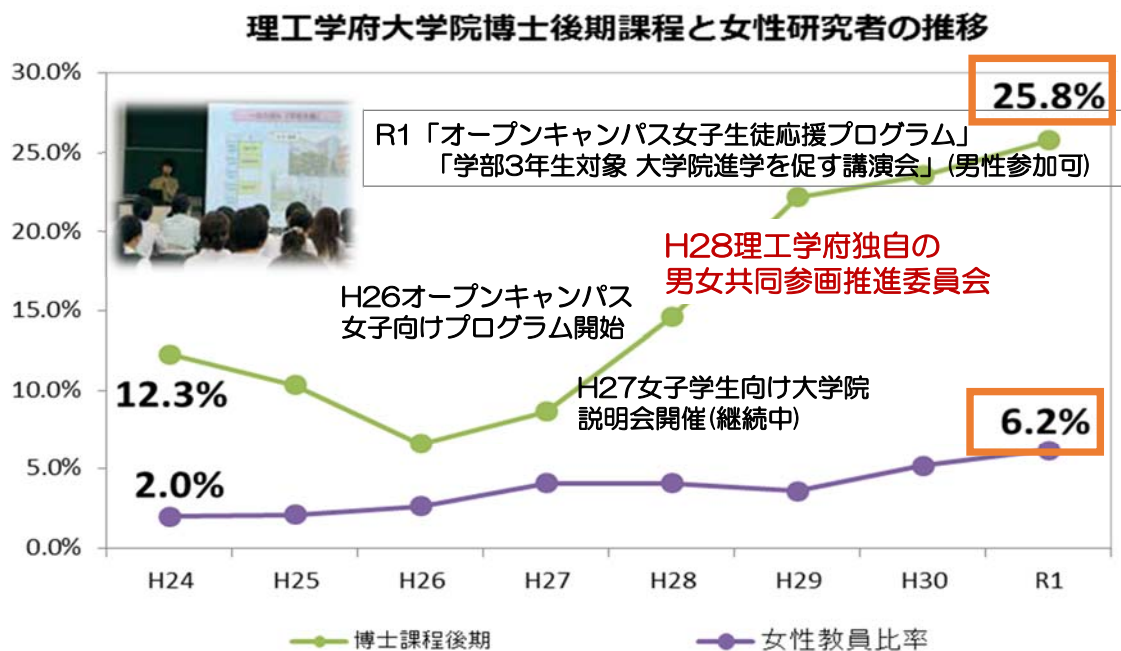
ポジティブアクション「まゆだま加速プラン」実施 (2017年～)
全学経費において、女性限定公募スタートアップ経費120万円を確保し、
さらに魅力ある研究環境を整え、早期の上位職へのキャリアアップを支援

取組成果 女性限定公募により理工学府において上位職が増加
(女性教授1名から、現在女性教授2名、准教授3名)
学部独自の支援により助教の数も増加



目標を超える効果

効果 女性研究者の増加は、女子学生増加への好循環を生み出す



取組成果 女性大学院生、教員比率の増加

課題(1)-2 医学系「上位職ポストアップシステム」

- 医学系における学生・大学院生及び研究者の女性比率(全国平均と本学との比較)

	学士課程 (%)	修士課程 (%)	博士課程 (%)	専門職学位課程 (%)	学生合計 (%)	助教 (%)	講師 (%)	准教授 (%)	教授 (%)	教員合計 (%)
第15回(2018)	31.6	47.8	25.7	62.1	30.8	22.9	12.3	10.7	3.8	16.6
群馬大学	33.1	50.0	26.6	-	32.0	26.0	18.5	9.1	0	20.4

【現状把握の結果】教授が全国平均を大きく下回っている

改革案 医学系女性研究者上位職ポストアップシステム (R1~R4)

女性研究者リストも活用し、准教授から教授、講師から准教授へのポストアップを計画的に進める。

- ①独自の昇任の評価項目(教育活動の重みづけ等)を策定
- ②定年予定の医学系の教授・准教授ポストのうち25%(女性5名)を採用

取組成果

2020年5月

医学系で初めて女性教授1名を内部登用

(女性教授0名、准教授2名から、現在女性教授1名、准教授3名) 5

課題(2)-1 学内外のネットワークの構築

「ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク」により 学内外のダイバーシティ環境創出

ネットワーク事務局



国立大学法人 群馬大学
NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION
GUNMA UNIVERSITY

- 就職企業開拓
- キャリア形成
- 共同研究開発

関係自治体

産業界・企業

群馬県・前橋市・桐生市・高崎市他
Panasonic・ORIX・サンデンホールディングス
・丸三綿業・沖電気工業・富士重工業
・セイワ食品・オリヒコ・免疫生物研究
所・ケアコム・クインタイズトランスショナル
ジャパン・JR東日本・ALPHA・(福)浴風
会・東和銀行・群馬銀行他

県内高等教育機関
16賛同機関
女性研究者 660名

連携

ぐんま ダイバーシティ推進 地域ネットワーク

注目！群馬の頼れる女性研究者600人

群馬県内16の高等教育機関にネットワークが広がっています

男女共同参画やダイバーシティ推進を目的として、群馬県内の高等教育機関が初めてネットワークを結成することとなりました。現在16機関が賛同しています。群馬の未来のために、女子学生や女性研究者など多様な人材が活躍できる地域環境のあり方を考えていきます。



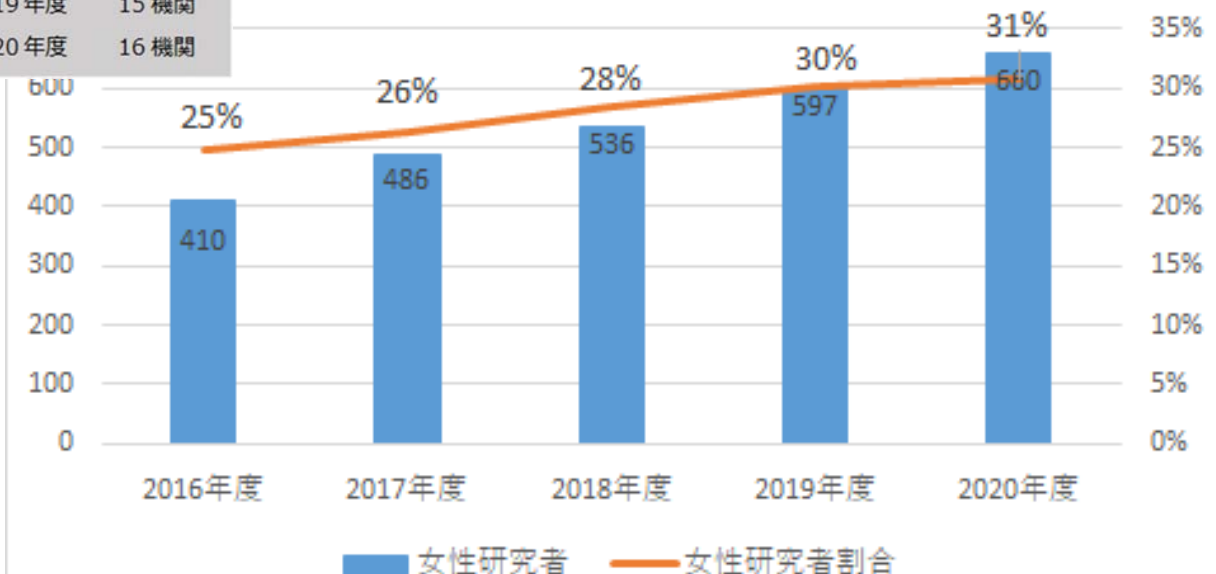
*好評だったワークショップ

課題(2)-1 学内外のネットワークの構築

データ提出機関

2016年度	13 機関
2017年度	14 機関
2018年度	14 機関
2019年度	15 機関
2020年度	16 機関

女性研究者の推移



課題(2)-1 ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワークから情報発信

● ネットワークに所属する女性研究者シーズ集をホームページに掲載



専門分野・研究紹介・
社会貢献・所属審議会・
講演演題などを掲載

効果

地域人材を情報発信し、
共同研究や地域活性化へ
つなげる

取組成果

他機関への波及効果と地域貢献

課題(2)-2 共同研究促進によるイノベーションの創出

女性研究者 共同研究促進事業 採択者の研究資金獲得件数

	プロジェクトリーダー 【A型】助成50万円		研究会企画・提案 【B型】助成10万円		研究資金獲得
	採択数	申請数	採択数	申請数	翌年以降新規科研+継続科研
2017-2020	25	(50)	11	(20)	11 + 10

効果

B型からA型へ、A型から**科研の共同研究へと展開**

研究活動支援制度(研究活動支援員配置)

【実績】	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	総数
支援利用研究者	30名	26名	26名	25名	28名	27名	26名	56名 (実数)
研究活動支援者	70名	54名	39名	42名	48名	45名	-	298名 (延べ)

成果

H26年度より **56名** のライフイベントを抱える研究者へ配置

課題(3)-2 独自の研究費助成による成果

群馬大学独自の研究助成女性採択者の
翌年度の科学研究費採択状況

助成金 利用年度	翌年の科研費採択数(女性) /研究助成採択数(女性)	科研採択率
2012 H24年度	1/15	6.7%
2013 H25年度	3/14	21.4%

効果

支援を存続することで
翌年度の採択率に
結果が反映されている

2014

2015

2016

2017

2018

平成30年度科研費採択数と1人当たりの獲得経費

	在籍数(人)	科研 採択(人)	男女別 採択率	採択者一人当たり 直接経費(円)	採択者一人当たり 間接経費(円)
女性	164	85	51.8%	2,735,294	820,588
男性	638	308	48.3%	1,800,649	540,195

取組成果

「まゆだま」の様々な支援を得て、採択率の向上のみならず獲得経費も、全学で男性を上回る結果が出た。

課題(3)-3 魅力ある研究環境整備

- 研究者が活躍
しやすい環境づくり



- ▶ 学会等の託児経費の補助を実施
- ▶ 近隣の放課後児童クラブ（学童保育）との連携
- ▶ 両立支援アドバイザーの配置による相談の実施

2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
101 件	133 件	186 件	261 件	210 件	246 件



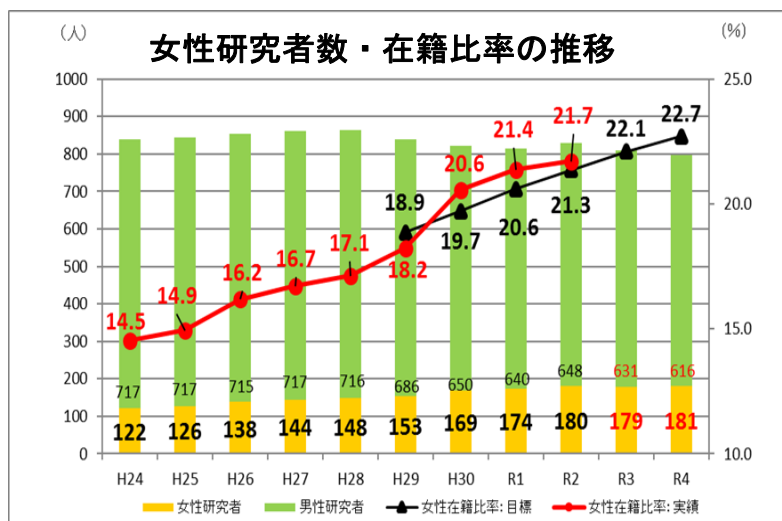
*子育てしやすい職場として「くるみん」認定



10年後を見据え 中長期的視点で実施

● 女性研究者の獲得、登用の取組み

▶ 3つの数値目標を早期に達成



取組成果

- ①女性研究者
20.0%
- ②女性役員
12.5%
- ③女性管理職
14.5%

受賞

* 群馬県知事表彰

「ぐんま輝く女性支援賞」

令和2年6月



* 科学技術推進機構「輝く女性研究者活躍推進賞」

令和2年11月

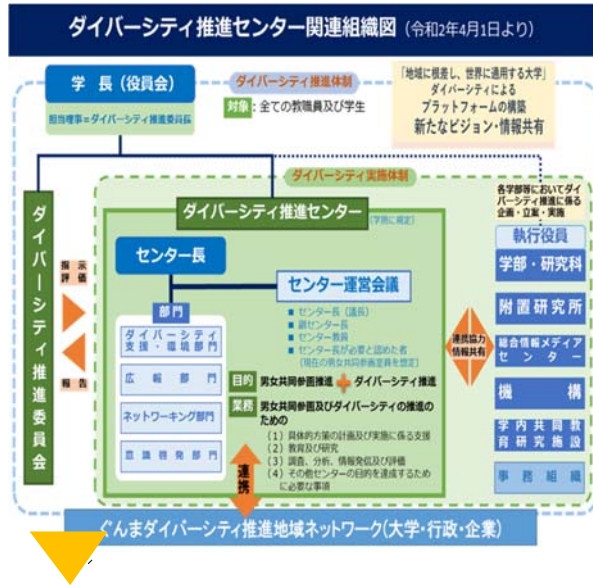


ダイバーシティ推進センターの設置 (2020年4月～)

目的

- ①男女共同参画に加えダイバーシティを全学で推進する
- ②男女共同参画とダイバーシティの教育研究を発展させる

組織を学則に明記するとともに、専任教員を増やし持続可能な体制を整備



新体制でSDGsへ貢献



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です



目標

SDGs
学内外への推進に貢献

ダイバーシティの新たな取り組みとして

- 性の多様性に関する「基本的考え」と「対応ガイドライン」を策定 (2019年)



取組成果

- 相談窓口の設置
- 学籍上の性別の変更
- 通称名の利用
- 施設設備の整備等



ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）事業
国立大学法人
群馬大学 ダイバーシティ推進センター設立記念シンポジウム



—Beyond Borders

新たな連携の

時代へ向けて—

12/1
2020.1 TUE

12:30-16:10 (開場:12:00、Web入室開始12:20)

会場：・群馬大学荒牧キャンパス 大学会館
ミュージックホール(本会場) 定員60名
アトリウムラウンジ(別会場) 定員20名
・オンライン配信: Cisco Webex Meetings 定員300名



16

群馬大学ダイバーシティ推進宣言

群馬大学は、地域に根ざしながら、二十一世紀を多面的かつ総合的に展望し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成など地球規模の課題に挑むという使命を果たすため、全ての大学構成員がその能力を生かし、多様で先進的・創造的な教育研究を展開しています。研究及び学修環境の整備にも努め、平成25年度からの男女共同参画の取り組みを通して、女性研究者や若手研究者の育成に力を入れてきました。さらに、令和元年には「性の多様性に関するガイドライン」を策定し、性の多様性を尊重する取り組みを全学的に進めています。

群馬大学は、さらなる飛躍に向けて教育及び研究の一層の活性化と個性化を実現するため、性別、障がい、国籍、性的指向・性自認、宗教、年齢、価値観など、より広い視点でのダイバーシティを積極的に推進し、もって地域や国内外におけるダイバーシティ社会構築の一翼を担うことをここに宣言します。

令和2年11月 群馬大学長